

●漁況情報

- 昨年末から、小坪地区のヒラメ網漁でアンコウが混獲されることが多いそうです。5m前後の浅場でかかることもあり、1月下旬には16kgの大物が掛かったそうです。また、海水温上昇に伴い、アカハタやキジハタ、オオモンハタ等、ハタ類の混獲が多いそうです。



刺網にかかったアンコウ

- 1月11日から県西地域の定置網でマイワシの大漁が続きました。特に小田原の定置網で多く獲れており、約30トン/統獲れた日もありました。脂ののった大きなマイワシで、1月にこのような豊漁が続くことは、これまでの経験では無かったとのことでした。



定置網で獲れたマイワシ



マイワシの選別作業

- 2月上旬から、各浜で養殖ワカメの収穫が始まっています。藻食性魚類の食害がなかった地区では、今年はワカメの生育も良かったそうです。収穫されたワカメは生ワカメの他に、湯がきわかめや塩蔵わかめ等に加工され、各浜で直売されておりますので、ご利用下さい。

●浜の話題

- 12月～1月中旬にかけて、長井町漁協所属漁業者のトラフグ延縄漁では1～2kg主体で1隻1日20尾前後の安定した漁があり、コロナが収束傾向にあったこの時期の相場はコロナ禍以前の水準まで回復したそうです。漁業者は「天然・釣物 相模のとらふぐ」ブランド化の効果について実感しておりますが、今後もコロナの動向に伴う魚価安が懸念されるため、引き続き一般家庭での消費拡大を狙ったみがき販売の強化に取り組んで行くそうです。JA大型直売所「すかなごっそ」さかな館でも、長井町漁協がお鍋用の「相模のとらふぐ」製品を直売しておりますので、ぜひご利用下さい。



すかなごっそさかな館の販売コーナー（左）

お鍋用の「相模のとらふぐ」製品（右）

- 1月19日、横須賀市東部漁協鴨居支所の福本丸さんの養殖している早ワカメの生育状況を確認したところ、すでにメカブの重量は藻体総重量の20%ほどに生長していました。漁業者によると1月下旬から収穫し、盛期は2月の中旬ごろになるとのことでした。昨年5月の「浜の話題」でお伝えしまし

たが、今年、水産技術センターでは、この貴重な早ワカメの系統の普及を図るために、この系統からフリー配偶体を確保し、系統の保存とワカメ種苗の品種改良を計画しています。



鴨居漁港の地先で養殖されている早ワカメの様子

- 1月19日、平塚市漁業協同組合は、今年初めての海底耕耘を実施しました。水深2～4mの砂底をネットのついた海底耕耘機を曳くことにより、海底を耕して底質を改善するだけでなく、同時に生物調査やゴミの回収も行うものです。今回も、チョウセンハマグリが昨年と同じくらい採集され多い傾向でした。同漁協では、この作業をあと5回実施する予定です。



海底耕耘機



海底耕耘機の投入

- 1月24日、小坪漁協所属指導漁業士を始めとする3名、鎌倉漁協漁業研究会所属漁業者3名は、横須賀市東部漁協横須賀支所所属 漁業士（武丸さん、弥春丸さん）が実施している、カキ養殖について視察しました。当日は両漁業士から、カキ養殖のポイントや資材等について詳しく教えて頂き、今後、小坪や鎌倉の地先海面でもカキ養殖の試行を検討することになりました。



横須賀市東部漁協のカキ養殖視察の様子

- 1月25日、平塚市漁業協同組合は、次世代型漁業の構築を目指し、漁業の抱える課題解決や新たな技術導入の道を探るため、新技術検討会を開催しました。当日は、大学・企業関係者が集まり、海藻の新たな有効利用や水上ドローンの発表がありました。また、平塚漁港において、赤外線水中カメラのテストも行われました。



会議の様子



赤外線水中カメラのテスト

- 1月31日、神奈川県民ホールにおいて、感染対策を十分に講じながら漁業士会通常総会が開催され、令和3年度事業報告並びに収支決算、令和4年度事業計画並びに収支予算及び役員改選等が協議され、承認されました。新会長は、横浜市漁協金沢支所所属の蒲谷指導漁業士（蒲利丸）、副会長には横浜市漁協柴支所所属の小山指導漁業士（小政丸）及び腰越漁協所属の河原青年漁業士（清一丸）が選任されました。



令和4年度漁業士会通常総会の様子